

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：23901  
研究種目：若手研究(B)  
研究期間：2010～2013  
課題番号：22720035  
研究課題名(和文)「反・明治維新」感情の系譜学：同時代から今日に至る思想とメディア

研究課題名(英文) A Genealogy of the "Anti-Meiji Restoration" Emotions

研究代表者

與那覇 潤 (YONAHA, Jun)

愛知県立大学・日本文化学部・准教授

研究者番号：50468237

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は過去、および同時代の日本人たちが明治維新に対して抱いていた複雑な感情を掘り起こすことを目的としている。しばしば言われる、日本人は自らの近代化の成功を誇りとしてきたとする通説的見解に反して、本研究は、多くの日本人の思想家・表現者たちが明治維新に対してむしろ両義的、ないし時として敵対的な姿勢を示してきたという事実を明らかにする。具体的に取り上げられるのは、小津安二郎、内藤湖南、山本七平などの作品である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to reconstruct the mixed emotions about the Meiji Restoration among the Japanese people in the past and contemporary era. It is often said that the Japanese were proud of their success of modernization, however, this survey reveals the fact that many Japanese thinkers and creators expressed ambiguous or sometimes antagonistic attitudes towards the Restoration, including Ozu Yasujiro, Naito Konan, Yamamoto Shichihei and others.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、思想史

キーワード：日本史 思想史 メディア史 メタヒストリー 中国化 近代 戦争 戦後

## 1. 研究開始当初の背景

明治維新をいかに評価するかは、日本近代史研究上の要石であり続けてきた。戦前以来長らくの間は、マルクス主義ないし近代主義の影響の下で、「明治維新=近代化/西洋化」自体は歴史の「進歩」として評価しつつ、しかしモデルとなった「西洋」に比して「近代化」の度合いが不徹底であったことを、「封建遺制」や「天皇制」などのタームによって否定的に評価するという視角が一般的であった。

しかし1990年代以降には、「国民国家論」「民衆史・民衆思想史」「政治思想史」などの諸潮流が、それぞれ別個に、かつては自明とされた上記の歴史叙述の前提を転覆させるに至った。各々の仔細は略するが、それら三つの潮流に共通する含意は、「明治維新を『西洋化』として肯定的に把握する姿勢は、研究者にとって自明でないばかりか、同時代人の実感とも齟齬する」ということであり、むしろ当該時代を生きた人々の認識に則した「明治維新像」の再検討が強く求められる状況が生まれたと言えよう。

## 2. 研究の目的

「反・明治維新」感情=明治維新およびそれ以降に成立した社会秩序に対する、否定的な評価や情緒的反感の系譜を、維新直後から現在に至るまでの長期間にわたって、通時的に位置づけ、具体的にそこで「何が」嫌悪の対象となり、その反発心を表明するのになかなる修辞(語り口、表現の技法)が採用されてきたのかを、構造的に解析することで、近現代を通過してきた日本人の思考パターンを抽出し、それが帰結する社会思想的な含意について、理論的な洞察をも導くことを目標とした。

## 3. 研究の方法

維新直後から現在に至るまでの日本人が、社会思想・歴史認識・時代小説・時代劇映画・地域アイデンティティなどの様々な媒体で表出してきた「反・明治維新」感情について、日本思想史の最新の成果を踏まえた分析視角の下に、資料読解を通じた新たな系譜づけを行った。

## 4. 研究成果

詳しくは次項「5. 主な発表論文等」を参照されたいが、主たるものに絞って述べると、初年度には、単著『帝国の残影 兵士・小津安二郎の昭和史』(NTT出版、2011年1月)を刊行した。同書では映画監督小津安二郎の

映像作品を歴史資料として読み解きつつ、小津自身が従軍した日中戦争を「中国化論」の観点から、中国的な帝国の幻想をつかの間夢見た近代日本が、しかしその適性のなさゆえに果たせず、自滅した戦争として捉えなおし、そして小津作品のなかにもそのような「近代化=中国化」の原点である明治維新に対する呪い=「反・明治維新」感情が看取される、という解釈を提示した。

2年度目には、本研究のバックボーンとなる歴史観を発信する単著『中国化する日本—日中「文明の衝突」一千年史』(文藝春秋、2011年11月/のち文春文庫、2014年4月)を公刊した。同書では内藤湖南、宮崎市定、網野善彦、速水融ら史学史上に残る歴史家たちの歴史観を、「中国化」と「江戸時代化」という二つの理念型の下に一本に束ねなおすことで、「多くの一般庶民にとって、明治維新とは実は『西洋化の衣を纏った中国化(郡県化)』であったに過ぎず、そのために江戸時代的(封建的)な安定した秩序に郷愁を感じる日本人は、近代以降も『反・明治維新』感情に基づく江戸時代への郷愁を紡ぎ、時として現実にも政治・経済体制の『再江戸時代化』(コーポラティズム化)を行ってきた」とする、議論の前提を学界はもとより、広く社会に訴えることができた。

3年度目および最終年度には、上記『中国化する日本』に描かれた歴史観をめぐって、経済学者(池田信夫・與那覇潤『「日本史」の終わり 変わる世界、変わらない日本人』PHP研究所、2012年9月)、中世史家(東島誠・與那覇潤『日本の起源』太田出版、2013年9月)など、他分野の専門家との討議の成果を対談集の形で江湖に問うたほか、『中国化する日本』自体の中国語(簡体字)版・韓国語(ハングル)版を刊行する機会も得た。特に前者の出版にあたっては、正規の学会発表ではないため次項には記載しなかったが、刊行元の招聘によって訪中し、北京師範大学にて内容についての講演も行っている(「日本正在中国化? / 『中国化する日本』の教訓 新しい日中関係のために」通訳=何曉毅、コメンテーター=王新生、2013年6月7日)、同講演のテキストは「〔その他〕ホームページ等」に挙げたページ上にて、国内向けにも公開している。

いうまでもなく本報告書をもって本研究はいったん閉じられることになるが、上記に挙げた人名のほかに「反・明治維新」を論ずる上で重要な思想家/史論家として、山本七平と江藤淳を発見したことも、申請当初には予期しえなかった本研究の大きな成果であった。山本については次項に記載のとおり、その歴史観の意義を網野善彦と対照しながら検討する論文をすでに執筆済み(2014年夏刊行予定、印刷中)であり、また江藤についても、できるだけ本研究から間をおかずに、何らかの形で成果を公表したいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件:すべて査読無)

【研究論文 3件】

○與那覇潤「小津安二郎と昭和史の方法  
中国化論補章」『愛知県立大学日本文化学部  
論集』1号(歴史文化学科編) pp.41-83、2010  
年3月。

○與那覇潤「中国化する公共圏? 東アジ  
ア史から見た市民社会論」『法政研究』77 卷  
1号、pp.161-177、2010年7月(九州大学法  
政学会)。

○與那覇潤「小津安二郎と体験史の方法  
中国大陸で見た画面と戦場」『歴史の理論と  
教育』133・134 合併号、pp.17-35、2010年  
9月(名古屋歴史科学研究会)。

【書評・レビュー論文 3件】

○與那覇潤「書評:陶徳民・姜克實・見城悌  
治・桐原健真編『東アジアにおける公益思想  
の変容 近世から近代へ』」『史学雑誌』119  
編8号、pp.81-90、2010年8月(史学会)。

○與那覇潤「書評:小川和也著『文武の藩儒  
者 秋山景山』」『歴史評論』744号、pp.96-100、  
2012年3月(歴史科学協議会)。

○與那覇潤「動向:帝国に『近代』はあつた  
か 未完のポストコロニアリズムと日本  
思想史学」『日本思想史学』44号、2012年9  
月、pp.79-88。

〔学会発表〕(計 5 件)

【国内学会 1件】

○與那覇潤「中国化するアダム・スミス?  
比較近世論のなかのジョヴァンニ・アリ  
ギ」日本現代中国学会第62回全国学術大会、  
一橋大学、2012年10月21日。

【海外学会 1件】

○ YONAHA, Jun “ Non-emergence of  
Nationalism: On the Discursive  
Legitimation of the Ryukyu Annexation,  
1879 ” Association for Asian Studies,  
Hawai'i Convention Center, 2011年3月  
31日。

【公開シンポジウム 3件】

○與那覇潤「中国化する公共圏・再論 東  
アジア史のなかの市民社会論」第3回アジア  
市民社会公開シンポジウム「北東アジアの市  
民社会:その投企と紐帯」、九州大学、2011  
年3月12日。

○與那覇潤「東洋王朝革命か西洋市民革命  
か? 同時代沖縄県民の見た『辛亥革命』」  
東アジア近代史学会・福岡ユネスコ協会共催  
学術シンポジウム「辛亥革命と東アジア」、  
福岡市エルガーラ中ホール、2011年10月30

日。

○與那覇潤「民主化へのふたつの道?  
『同病相憐れむアジア主義』の構想」南山大  
学アジア・太平洋研究センターシンポジウム  
「新世代の日中関係論:日中国交正常化 40  
周年に寄せて」、南山大学、2012年10月27  
日。

〔図書〕(計 20 件)

【単著(日本語) 3件】

○與那覇潤『帝国の残影 兵士・小津安二  
郎の昭和史』NTT出版、2011年1月、230頁。

○與那覇潤『中国化する日本 日中「文明  
の衝突」一千年史』文藝春秋、2011年11月、  
319頁。/増補版、文春文庫、2014年4月、  
395頁。

○與那覇潤『日本人はなぜ存在するか』集英  
社インターナショナル、2013年10月、189  
頁。

【単著(翻訳) 2件】

○與那覇潤『中国化的日本 日中文明"衝突"  
千年史』何晓毅(译)、桂林:广西师范大学  
出版社、2013年5月、315頁。

○與那覇潤『中国化する日本』(崔鐘吉)  
(翻訳)、Seoul: Paperroad Publishing、  
2013年7月、304頁。

【共著(対談集) 3件】

○池田信夫・與那覇潤『「日本史」の終わり  
変わる世界、変わらない日本人』PHP 研  
究所、2012年9月、315頁。

○東島誠・與那覇潤『日本の起源』太田出版、  
2013年9月、360頁。

○與那覇潤『史論の復権 與那覇潤対論  
集』新潮新書、2013年11月、237頁(中野  
剛志・中谷巖・原武史・大塚英志・片山杜秀・  
春日太一・屋敷陽太郎との各対談)。

【共著(論文集への寄稿) 9件】

○黒川みどり(編)『近代日本の「他者」と  
向き合う』解放出版社、2010年11月。

○與那覇潤「中国化の季節 戦後思想文化  
史への一断章:一九四五~一九七二年」(第  
13章、pp.366-396)を寄稿。

○坂野徹・慎蒼健(編)『帝国の視角/死角  
昭和期 日本の知とメディア』青弓社、  
2010年12月。

○與那覇潤「小津安二郎と帝国史の方法  
ひとつの(反)ポストコロニアル批評」(第6  
章、pp.177-206)を寄稿。

○三谷博・村井章介(編)『琉球からみた世  
界史』山川出版社、2011年6月。

○與那覇潤「世界史からみた琉球処分  
『近代』の定義をまじめに考える」(第8章、  
pp.137-158)を寄稿。

○上川通夫・愛知県立大学日本文化学部歴史  
文化学科(編)『国境の歴史文化』清文堂、  
2012年3月。

與那覇潤「小津安二郎と体験史の方法  
中国大陸で見た画面と戦場」(第3部1章、  
pp.219-250)を寄稿。【再録】  
○大賀哲(編)『北東アジアの市民社会  
投企と紐帯』国際書院、2013年4月。  
與那覇潤「東洋の民主政 概念のため  
に その思想と小史」(第1章、pp.21-48)  
を寄稿。  
○山田智・黒川みどり(編)『内藤湖南とア  
ジア認識 日本近代思想史からみる』勉誠  
出版、2013年5月。  
與那覇潤「史学の黙示録 『新支那論』  
ノート」(第2部1章、pp.161-204)を寄稿。  
○苅部直(編)『日本思想史講座4 近代』ペ  
リかん社、2013年6月。  
與那覇潤「荒れ野の六十年 植民地統治  
の思想とアイデンティティ再定義の様相」  
(第6章、pp.221-256)を寄稿。  
○猪口孝・袴田茂樹・鈴木隆・浅羽祐樹(編)  
『環日本海国際政治経済論』ミネルヴァ書房、  
2013年10月。  
與那覇潤「日本政治の『中国化』 揺ら  
ぐ議会制民主主義」(第9章、pp.193-210)  
を寄稿。  
○河野有理(編)『近代日本政治思想史』ナ  
カニシヤ出版、2014年夏予定。  
與那覇潤「歴史 山本七平と網野善彦」  
(頁数未定)を寄稿。【印刷中】

【共著(書評・解説の寄稿) 3件】

○野上元・福間良明(編)『戦争社会学ブ  
ックガイド 現代世界を読み解く132冊』創  
元社、2012年3月。  
與那覇潤「体験を記述する営み」「戦争体  
験言説の戦後史」「戦後思想と戦争体験」  
(pp.48-52・219-221・225-227)を寄稿。  
○網野善彦『歴史を考えるヒント』新潮文庫、  
2012年8月。  
與那覇潤「解説:変えてゆくためのことば  
二〇世紀体験としての網野善彦」  
(pp.209-222)を寄稿。  
○内藤湖南『支那論』文春学藝ライブラリー、  
2013年10月。  
與那覇潤「解説:革命と背信のあいだ  
『同病相憐れむアジア主義』の預言書」  
(pp.329-341)を寄稿。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

史論家練習帳

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/yonahajun/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

與那覇 潤 (YONAHA, Jun)

愛知県立大学・日本文化学部・准教授

研究者番号: 50468237

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし